

個に応じた指導を通して、確かな学力を身につける生徒の育成

羽咋市立邑知中学校

1 事例の概要

(1) 研究の仮説

- ① 補足的な学習・発展的な学習の教材開発に取り組み、生徒一人ひとりの学びに応じた指導・工夫を行えば、確かな学力を身につけることができるであろう。
- ② 多様な評価を生かした指導を行えば、確かな学力を身につけることができるであろう。
- ③ 生徒の学びを支える環境づくりを行えば、確かな学力を身につけることができるであろう。

(2) 内容

- ① 数学科、英語科において、少人数授業や習熟度別学習などに取り組むことで、きめ細かい指導を行い、基礎・基本の定着に向けた支援・指導を行う。また、習熟度別学習の効果的な方法について研究する。
- ② 基礎・基本の定着をもとに、さらに発展的な学習につなげ、生徒の学習意欲を高める。また、発展的な学習の教材を開発する。
- ③ 少人数・習熟度別学習の成果を、他教科の指導法改善につなげる。
- ④ 評価方法、特に評価規準について見直しを図る。
- ⑤ 家庭・地域との連携をはじめ、学習を取り巻く環境の整備を推進する。

(3) 組織

- ① 少人数授業研究部（国語、数学、英語、特別支援教育）
- ② 学習活動研究部（社会、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、養護）

A-1 邑知中の教育

2 実践内容

邑知システム ……個に応じた指導の広まり

(1) 個に応じた指導を生かす教材開発<教材開発の視点>

- ① 生徒の実態に応じる
- ② 付きたい力を明確にする
- ③ 効果的な活動を生み出す

(2) 個に応じた指導を生かす指導法の研究

① 指導体制の工夫

- ア 習熟度別少人数授業の展開【数・英】（基礎・基本、基礎・基本＋発展コース）
- イ 多様な学習形態の積極的導入（個別指導やグループ別指導の充実）

② 指導方法の工夫

- ア 教科指導の充実（一斉指導での習熟度別授業の導入・補足的な学習・発展的な学習の充実）
- イ 選択教科の充実（基礎・基本、基礎・基本＋発展コースの設定）
- ウ 総合的な学習の時間の充実（ふるさと学習の推進・指導過程での評価の工夫）

③ 指導と評価の一体化による授業改善

- ア 授業分析と指導法の改善【評価からのフィードバック】（各教科の工夫・改善）
- イ 評価の工夫【評価方法、評価規準】（評価を生かした手だての工夫）
- ウ 指導案の工夫

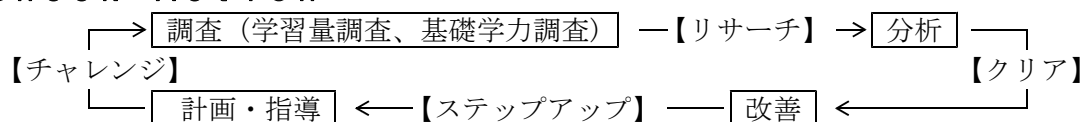
エ 校内研修会の充実<共通の視点>

- ・生徒が主体的に学習し、生き生きとした表情で臨む授業
- ・学習の定着に応じた指導のあり方が考えられた授業
- ・自己評価、相互評価など多様な評価方法が工夫された授業
- ・調べ学習や問題解決型の学習形態を取り入れた授業
- ・発表する場面が設定された授業
- ・評価の観点が絞られた授業

(3) 学びの場の広まり

- ① スピーチ（朝のスピーチ、学校行事）
- ② 朝読書と本の紹介
- ③ 補充学習（学習サポート（テスト前、休業中）、家庭学習の充実（家庭との連携））
- ④ 資格取得（英語検定、漢字検定、理科検定、歴史検定）

(4) Check・Action



- 調査……基礎学力調査など各種調査・アンケートを行う。
- 分析……調査に基づき、現状の生徒の実態を把握する。
- 改善……課題を明確にし、各教科において改善点を示す。
- 計画・指導……改善が生きる計画を立て、指導・実践する。

B-1 英語科指導案

B-2 参考資料

3 成果と課題

(1) 成果

- ① 個に応じた指導を生かす教材開発
 - ・指導内容を焦点化し、実態に基づいた教材を提示することで、生徒が意欲的に取り組むようになった。
- ② 個に応じた指導を生かす指導法の研究
 - ・少人数授業を中心とした、個に応じた指導により、意欲的に課題に取り組み、達成感を感じる生徒が増えてきた。それが、他教科にも波及し、意欲的な態度が見られるようになった。
 - ・習熟度別学習において発展的な学習のコースを設定することで、より高い学習意欲と主体的な学びの姿が見られるようになってきた。
 - ・授業における評価を積極的に取り入れて、生徒の学習意欲を高めたり、教師の授業改善につながるような学習展開を進めることができた。
 - ・表現力を育成する観点から、発表や発言が確保された場を設定することで、自分の考えを他に積極的に伝えたり、互いに学び合う態度が見られるようになった。
- ③ 学びの場の広がり
 - ・家庭学習の習慣化や補充学習の充実により、学習のねらいがより達成できるようになり、基礎・基本の確実な定着が見られた。
 - ・各種資格試験の受験者の増加が見られるようになった。
- ④ Check・Action
 - ・確かな学力育成のための実践研究推進校としての役割を担い、本校における研究の取り組みを外部に向け、情報を発信することができた。

(2) 課題

- ・一人ひとりの生徒の見取りを的確に行うことで実態を把握し、つきたい力を明確にした上で、個に応じた指導をより一層充実しなければならない。
- ・全教科にわたり多様な支援と評価の一体を図り、指導法の工夫・改善をより一層進めていかなければならない。
- ・家庭や地域と連携して、邑知システムを支える環境づくりをさらに充実していかなければならない。